アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル　愛南町出身のkikuさんが綴るふるさとエッセイ

ーあいなん音故地新ー　「経験ポイント」

新しい年を迎えたと思ったら、すぐに春が来てまた今年も巣立ちの季節。特に子どもたちには大きな分岐点が待ち構えとる。登る気がなくても大人への階段はエスカレーターみたいに勝手に上まで運んで、今の地点へは二度と戻れん。

先月、御荘中学校で話す機会をもらった。その時にも話したんやけど、新しい事を始めるときや、挑戦するのは大人になっても怖い。はじめの一歩は勇気がいる。不安にだって襲われる。もちろん、ワクワクする気持ちもあるんやけどね。そして、大人になってから負う傷は予想以上に大きくて深い。恋愛でも勉強でも夢でも、子どもの時よりずっと。

子どものうちにたくさんの事に挑戦してたくさん失敗して、経験して、乗り越え方や傷の手当ての仕方を学んで経験ポイントを貯めとこう。大人になって何か起こったときにその経験ポイントが使えるから。そうすれば一歩を踏み出すときの不安や恐れが小さくなるし、そうなると挑戦、経験できる、成長できる、感動できる、いいことづくめ。

経験や知識は最強の武器になる。誰にも奪えんしね。　（テノヒラkiku）

あいなん逸品図鑑 その⑱

逸品図鑑「ポンカン」

愛媛CATV動画

柑橘農家　入田 哲光（のりみつ）さん（御荘平山）

７年前に大阪からUターンして柑橘栽培を行っている入田哲光（のりみつ）さん。生産量が最も多いのは甘夏ですが、「あと５～６年すればポンカンが一番多くなると思う」と話し、栽培に力を入れています。

今年は12月10日ごろから収穫を開始し、倉庫に３週間ほど保管して良く色が付いたものを順次出荷する作業を２月中旬まで続けます。「だんだんと色が付いて、味も乗ってきている。去年、おととしに比べると糖度も上がっておいしい」と話す入田さん。今年のポンカンの出来に自信を見せます。

御荘平山の園地は北風が強く、防風林や防風ネットによる対策が必要になるなど苦労もありますが、「海が近いので柑橘栽培に向いているのでは」とも述べます。今後の展望については、「現状維持で、まずは地盤を固めていきたい」と堅実な果樹経営を目指しています。

▲ポンカンの収穫作業を行う入田哲光さん。サラリーマン生活を経て就農しました。

▲入田さんが育てたポンカン。出荷サイズは２Sから３Lまで６種類に分かれます。